

---

## 平成26年度 病害虫発生予報 第9号

平成26年12月19日  
栃木県農業環境指導センター

---

### ○果菜類の灰色かび病、トマト葉かび病の増加に注意しましょう！

---

予想期間 12月下旬～1月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

---

#### 1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根拠 ・現在の発生は平年並（平年比：ほ場率70%、発生株率64%）。(±)  
・向こう1か月の気温は低く、発生に適している。(+)
- (3) 対策 ・適正な温度管理、換気やかん水等を実施する。  
・発生を予防するため、硫黄粒剤でくん煙する。  
・発生が見られる場合は、サンリット水和剤やカリグリーン等を散布する。
- (4) 備考 ・硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるため、長時間の使用は避ける。
- 

#### 2 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根拠 ・現在の発生は平年並（平年比：ほ場率110%、発生株率110%）。(±)  
・主要薬剤の殺虫効果が低下しており、密度抑制が困難である。(+)  
・向こう1か月の気温は低く、増加に適していない。(-)
- (3) 対策 ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除する。  
・必要に応じて葉かきを行い、薬剤がかかりやすい状態で気門封鎖剤等を散布する。
- (4) 備考 ・気門封鎖剤は卵には効果が無いため、複数回、十分量を散布する。  
・天敵製剤を使用する場合は、放飼前に一度防除し、ハダニ類の密度を下げる。  
また、使用する薬剤は天敵に影響のないものを選択する。  
・天敵放飼から1～2週間は薬剤散布を避ける。  
・[「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」](#)を当センターHPに掲載中。
- 

#### 3 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根拠 ・現在の発生はやや多い（平年比：ほ場率378%、発生株率50%）。(+)  
・向こう1か月の気温は低く、発生に適している。(+)
- (3) 対策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を除去する。  
・咲き終わった花卉や発病果、発病葉は感染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。  
・防除は予防を主体にセイビアーフロアブル20、ファンベル顆粒水和剤等を葉裏にも良くかかるように散布する。
- (4) 備考 ・微生物防除資材（ボトキラー水和剤等）は発病前～発病初期に利用する。また、低温条件では効果が出にくいので、10℃以上が確保できる施設内で使用する。  
・[植物防疫ニュースNo.19\(トマト：灰色かび病\)](#)を当センターHPに掲載中。
- 

#### 4 トマト 葉かび病

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根拠 ・現在の発生は多い（平年比：ほ場率617%、発生株率755%）。(+)  
・向こう1か月の気温は低く、発生に適している。(+)
- (3) 対策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。  
・肥切れ等により生育が衰えると発生しやすいので、肥培管理に注意する。  
・発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き施設外で処分する。  
・防除は予防を主体にダイマジンやポリオキシンAL乳剤等を散布する。
- (4) 備考 ・抵抗性品種でも発病するレースがあるため、発生に注意する。  
・[植物防疫ニュースNo.17\(トマト：葉かび病\)](#)を当センターHPに掲載中。
-

## 5 なら 白斑葉枯病

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並（平年比：ほ場率74%、発生株率149%）。(±)  
・向こう1か月の気温は低く、発生に適している。(+)
- (3) 対 策 ・施設内が低温多湿とならないよう、日中に適度な換気を行う。  
・捨て刈りした葉は伝染源となるため、施設外に持ち出し、適切に処分する。  
・発生初期にストロビーフロアブル、ポリオキシシナL水溶剤を散布する。

## 6 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量： **平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並（平年比：ほ場率108%、発生株率135%）。(±)  
・主要薬剤の殺虫効果が低下しており、密度抑制が困難である。(+)  
・向こう1か月の気温は低く、増加に適していない。(－)
- (3) 対 策 ・薬剤のかかり易い生育初期から防除を行う。  
・葉裏をよく観察し、発生が見られたら、下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・[「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」](#)を当センターHPに掲載中。

## 7 その他の病害虫

		現 況	発生予想			現 況	発生予想
いちご	灰色かび病	平年並	やや多	きゅうり	うどんこ病	平年並	やや多
	コナジラミ類	多	やや多		べと病	やや多	多
トマト	コナジラミ類	平年並	やや少	きく	白さび病	やや多	多

### イネ縞葉枯病の防除対策

・平成26年のヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は県平均9.9%と高く、ウンカ類幼虫密度も平年比432%と多い状況でした。刈り残し株や水田内のイネ科雑草はヒメトビウンカの生息場所となる恐れがありますので、まだ、耕起をしていないほ場は速やかに耕起を行きましょう。

[植物防疫ニュースNo.18\(水稲：イネ縞葉枯病\)](#)を当センターHPに掲載中。

### ○農薬は適正に管理し、正しく使いましょう！

★ミツバチやマルハナバチに対する安全日数を目安に薬剤を選択しましょう。

★同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

### 1か月気象予報（予報期間12月13日から1月12日 12月11日気象庁発表）

平年と同様晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、低い確率60%です。降水量、日照時間は、平年並の確率40%です。週別の気温は、1週目は、低い確率80%、2週目は、低い確率40%です。

	低い（少ない）確率	平年並の確率	高い（多い）確率
○気温	60%	30%	10%
○降水量	30%	40%	30%
○日照時間	30%	40%	30%

### ○農薬の使用方法が変わります

農薬の残留基準値を設定する際に新たな評価項目（短期暴露評価）が導入されたことに伴い、今後使用できなくなる農薬及び使用方法が変更される農薬があります。

農薬をラベルに記載された使用方法で使用した場合でも、今後改めて設定される農作物の残留基準値を超過する恐れがあるので、注意が必要です。

詳しくは農業環境指導センター(Tel 028-626-3086)までお問い合わせください。  
病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部\(@tochigi\\_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>)でもご覧になれます。